

特別寄稿

思川開発事業による
安定的な水資源の確保を願う
埼玉県総合政策部土地水政策課
課長 津田 賢一



埼玉県は人口が700万人を越え、県民の平均年齢も沖縄県に次いで全国第2位と若く、活気にあふれた県として力強く発展を続けています。この埼玉県の発展を支えるための社会基盤整備の課題の一つとして水資源の確保があります。県内の水道の普及率は99.6%であり、日々、県民の暮らしと命を守り育てています。また、県民1人あたりの水の使用量は、1日最大約420ℓで昭和40年代の約2倍となっています。これらの水道の水源は、地下水が約20%で残り80%が河川を水源として取水されています。

しかし、県の水利権は河川からの水源の45%が暫定水利権となっており、大変不安定な状況となっています。そのため、埼玉県では利根川や荒川の上流に建設されている各種の水資源開発に積極的に参加し、水源の確保に努めているところであります。

水資源機構が栃木県で建設を進めております思川開発につきましても、埼玉県の重要な水資源開発施設として建設事業や水特事業、基金事業等に積極的に参加させていただいており、一日も早い完成を期待するものです。また、ダム建設により住み慣れた故郷を離れる水没地域の皆様方には、深く感謝を申し上げる次第であります。

最後に、この事業の早期完成と工事関係者の皆様方の安全をご祈念申し上げます。



思川開発建設所は、思川地区の皆さまの生活環境を向上させるために、水資源の確保と、地域の発展に貢献することを目標として、皆さまの信頼とご協力をお願いいたします。

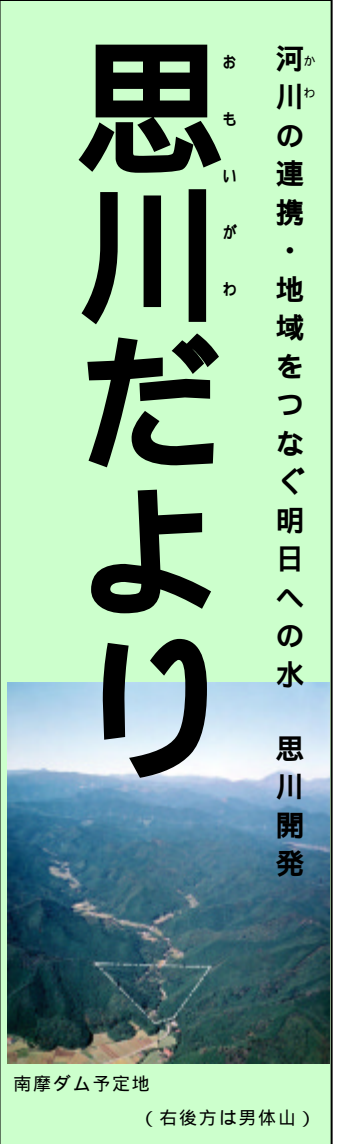
野口前所長の後任として、この10月1日付けで、独立行政法人水資源機構 思川開発建設所長を拝命
新任御挨拶
所長 森田 義則



新任御挨拶

思川開発事業につきましては、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。さて、水資源開発公社は昭和37年に国民生活の向上に寄与することを目的に、水資源の開発と利用のため、の事業を実施するたため、設立されて以来、40有余年、国民生活や産業の安定供給

性境見給よももる者ある日本た。
化の据えはなす対に抑からことし
にも全たなくのし価を事業も反
積や水くのて、観請この多様と
極水質、量、この安ま化とな
的源など、全定で
な地、域、体定
役域、全定で
割の水
を活環を供の



発行所
独立行政法人水資源機構
思川開発建設所
028-622-8941
発行人兼編集人
柴田 安宏

事業の最新情報を皆様にお伝えします

おもいがわトピックス

【移転代替地の進捗状況】

平成13年12月損失補償基準受結以来、生活再建最優先で補償契約を進めるとともに、2箇所に移転代替地を造成し、本年度から分譲を開始しました。西沢代替地(光ヶ丘団地)での建築状況は、9月末時点で21世帯の全世帯で建築工事に着手し、この内、8世帯は既に入居し新しい生活が始まっています。もう一方の上南摩代替地(思い川団地)での建築状況は、11世帯中7世帯が建築工事に着手し、この内、2世帯は入居され新しい生活が始まっています。



思い川団地(上南摩代替地)平成15年10月現在



光ヶ丘団地(西沢代替地)平成15年10月現在

【加蘇地区の調査について】

荒井川沿いの加蘇地区は、大芦川取水・放流工と南摩ダムを結ぶ大芦川導水路が地下を通過する地区です。思川開発建設所では、この加蘇地区においての導水路が通過する位置を検討するために必要な平面図作成と地質調査を実施してまいります。平面図は飛行機から写真を撮影し、それを図化して詳細な地形図を作成します。

地質調査は地質サンプルを採取するためのボーリング調査と、岩盤の固さを調べるための弾性波探査調査を行います。調査に当たっては、地元自治会をはじめ地域の皆様のご理解とご協力のもと進めてまいります。

河川映像提供システムの設置

思川開発建設所では、南摩ダムへの思川支川からの取水・補給計画を地域の皆様にご理解いただくために、平成15年9月から「黒川河川映像提供システム」を鹿沼市板荷コミュニティセンター（以下センター）に設置しました。このシステムは、黒川からの取水予定地点上流にある大原堰堤に小型カメラ（写真1、赤丸部分）を設置し、NTT回線を使って、約4km離れたセンター内に置かせていただいているモニター（写真2）で川の様子を見られるようになります。



【写真1】黒川のカメラ設置場所

このモニターでは、黒川の映像と流量をリアルタイムで表示します。映像はあらかじめ設定した大原堰堤の上・下流8方向に切替えることができます。これにより、日々の黒川の水量の変化を具体的に目にする事ができます。また、河川映像提供システム



【写真2】モニター画面

解を深めていただきたいと思います。

こんにちは！
南摩の仲間たち



リンドウ科
センブリ（千振）
Swertia japonica

花期：8～11月
分布：北海道西南部
本州、四国、九州
撮影：栗沢

センブリは日本全土の陽当たりが良い草地に自生する2年草で、草丈が10～20cm程度の草本です。花は直径1.5cm程度で、紫色の模様が入った白い可憐な花を開きます。

南摩では陽当たりの良い伐採跡地や林縁で見ることが出来ます。

この草は昔から健胃薬として知られており「千回振り出しても（煎じて）まだ苦味が残っている」ということから「センブリ」の名がつけました。また、別名を「当薬」とも言い、「当（まさ）に薬（くすり）」の意味からきたもので、良く効くことをあらわしています。薬としてセンブリをご存じの方も多いと思います。

本種は2年草であるため、秋の開花後に種子が出来て、地面に落ちた種子が発芽し、その芽が越冬して翌年の秋に開花します。もし、野生のセンブリを見かけたら、薬として持ち帰るのも良いですが、種子がなくなってしまうと絶滅してしまう可能性もあります。種子が散布された後でも、効き目は変わらないそうなので、採集するのは可憐な花を観察し、種子が散布されたことを見とけてからにしてはいかがでしょうか。そうすれば、きっと翌年も自然の恩恵を受けることが出来るでしょう。

梶又小学校最後の運動会

南摩ダムの水没予定地内の梶又地区にある、鹿沼市立梶又小学校で9月28日秋晴れの

下、盛大に「最後の運動会」が行われました。午前9時に花火を合図に、同校の全校児童7名を先頭に、

地域の皆様と堂々の入場行進が始まりました。同校の運動会は「地域住民参加型」で毎年行われてきましたが、今年度は最後と云うこともあって、同校の卒業生をはじめ、歴代の校長先生や教員の方々、そして地域の方々が多く参加されました。児童たちは障害物競走や一輪車乗り、ダンスなどのほか、地域の皆様と玉入れや綱引き、リレーなどたくさんさんの競技を披露していました。地域の参加者の方々からの多くの暖かい声援を受けて、精一杯頑張った最後の運動会、児童の胸にしっかりと刻み込まれたことと思います。



一層、地域の皆様に信頼され、社会に貢献できる事業を目指してまいります。また、思川開発建設所のキャッチコピー「明日への水、思川開発」と

人事異動

10月1日付で転入・転出のありました職員を紹介いたします。

| | | |
|---------|---------------|--------------|
| 転入者 | 「よろしくお願いたします」 | 「前任地」 |
| 所長 | 堀森 孝 | （本社環境室） |
| 副所長 | 野口 澄彦 | （霞ヶ浦開発総合管理所） |
| 転出者 | 「お世話になりました」 | 「転出先」 |
| 所長 | 白川 信之 | （技術研修センター） |
| 副所長 | 田原 秀光 | （本社管理事業部） |
| 第二調査設計課 | 犬童 真由 | （岩屋ダム管理所） |
| 第二調査設計課 | 廣瀬 真由 | （調整課） |
| | | （調整課） |
| | | 10月16日付 |

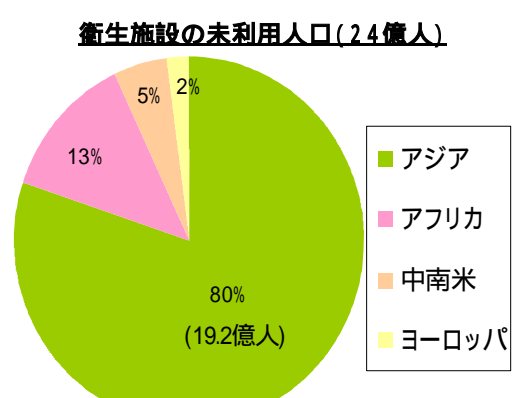
編集集

発行 平成15年10月
編集 源政と人水立
発行 源政と人水立
編集 源政と人水立

びっくり！水の資源のまめ知識

その「世界の水汚染の話」
今、人口の急増や産業の著しい発展により、アジア・アフリカの31カ国で絶対的な水不足が生じています。また、下水道等の整備が追いつかない国々で、水質汚染が大きな問題となっています。

水道の水がそのまま飲めて、ペットボトルを持ち歩くようになった私たちには想像も出来ませんが、途上国における病気の80%が汚水によるものと言われ、子供たちが8秒に1人の割合で亡くなっています。
現在、世界人口の40%（約24億人）は、衛生設備（トイレ）が未整備のもとに暮らし、地下水の過剰な汲み上げにより、飲み水のヒ素汚染も増加しています。また、淡水魚の20%の種は、水質汚染により絶滅の危機に瀕しています。



参考文献 「第3回世界水フォーラム事務局資料」 「WHO and UNICEF資料」